誌上行学講習会

高佐日煌上人

「(三) 自主自由の活動を求めることが、宗教、哲学、倫理、道徳、文学、出版に関する文化を発達させた。宗教は本来人間の自由を尊重する為に生まれたものです。迷信邪教は暗示を与えて人を拘束したり、我々自からの意思を注いで行く道を教えるものであります。哲学という階級はそうであります。今の我々は本当に自由に生きられることに感謝しなければならないでありましょう。我々は為に広く人類世界に及ぶ真の自由を発見せねばなりません。

「(四) 清浄平安の楽土を求めることが、法制、経済、政治、教育、産業、軍備、警察、行刑、国際関係等の文化を発達させ、国家、社会の組織と国際連合を完成せしめ昔は法律など有って無いようなものであった。力の強い人間の言うことが、そのまま法律になるという状態であった。ですから安心して住めるという世の中ではなかったわけです。それらも人間の願求する熱意と文化の発達によって、除々に完全ではないにしても大変改善されつつあるわけであります。

「四、前進する人類全体と共同の目的に向って、各個人の任運作用の場合には、自己の意志の自由を獲得した時期に於て、悠久の生活是の中に就て、すべて理想と現実とのギャップを埋めて行くことになる。」

以下次号に続く